

エコアクション21

# 環境経営レポート

# 河津産業株式会社

## (1)組織の概要

- 1 事業者名 河津産業株式会社
- 2 代表者名 代表取締役 河津直紀
- 3 所在地 本社 営業所 福岡県田川郡香春町大字中津原1974番地の2  
本社 駐車場 福岡県田川郡香春町大字中津原1966、1996-10  
北九州営業所 北九州市若松区大字安瀬64番地181  
北九州駐車場 北九州市若松区大字安瀬64番地181
- 4 法人設立年月日 昭和47年6月1日
- 5 資本金 400万円 事業年度 4月1日～3月31日
- 6 事業内容 一般貨物自動車運送事業、産業廃棄物・特別管理産業廃棄物収集運搬業
- 7 事業規模

活動規模	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度
産廃収集運搬量	t	193,741	229,919	219,461
従業員(本社)	人	33	30	32
従業員(北九州)	人	38	40	43
床面積(本社)	m <sup>2</sup>	3,262	3,262	3,262
〃(北九州)	m <sup>2</sup>	15,685	15,685	15,685
売上高	万円	161,848	172,229	148,156.3

## 8 収集運搬車両

### 本社営業所

車両形式	台数	規模・能力
ダンプ車	16台	最大積載量(9.3t～10.7t)
脱着装置付コンテナ専用車	3台	最大積載量(11.1t～11.3t)
ウイング車	0台	最大積載量(14.0t)
平ボデー車	0台	最大積載量(3.0t～3.5t)
トラクタヘッド	11台	
ダンプセミトレーラ	10台	最大積載量(22.4t～26.0t)
バンセミトレーラ	1台	最大積載量(25.8t)
セミトレーラ	1台	最大積載量(21.6t)
ホイロローダー	2台	
フォークリフト	1台	

### 北九州営業所

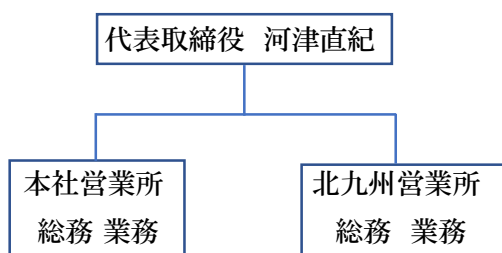
車両形式	台数	規模・能力
ダンプ車	4台	最大積載量(10.5t～10.7t)
脱着装置付コンテナ専用車	5台	最大積載量(7.8t～11.2t)
ウイング車	4台	最大積載量(12.8t～13.7t)
危険物ローリー車	4台	最大積載量(11.4t～11.7t)
ステンレスバキューム車	9台	最大積載量(11.1t～11.7t)
粉粒体運搬車	4台	最大積載量(12.0t～13.5t)
トラクタヘッド	6台	
粉粒体運搬セミトレーラ	8台	最大積載量(19.7t～28.0t)
パワーショベル	1台	
フォークリフト	2台	



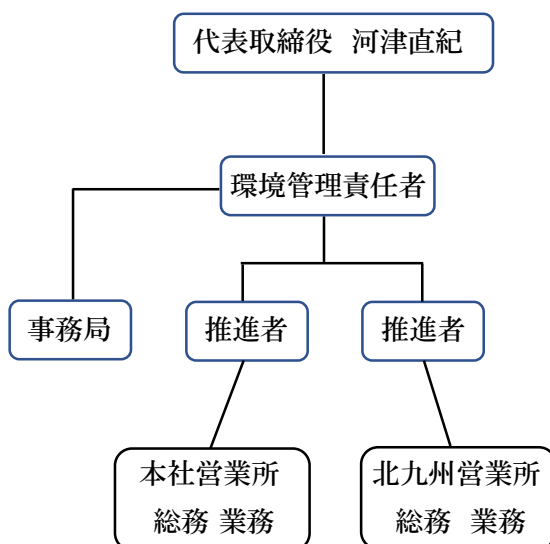


## (2)対象範囲

- 1 認証登録範囲 全組織・全活動
- 2 レポートの対象期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日
- 3 レポートの発行日 令和7年6月13日
- 4 組織図



## 5 エコアクション 21 実施体制



### ※代表者の役割

総括、環境方針の設定、経営資源の準備、全体の評価と見直し

### 環境管理責任者の役割

全体の把握、環境経営システムの構築、環境経営システムの運用  
代表者への報告

### 推進者の役割

経営管理システムの運用、環境管理責任者への報告

### 事務局の役割

文書及び記録類の作成維持管理、環境負荷の把握  
目標達成状況・計画実行状況の確認

### (3)環境経営方針

# 環境経営方針

## 基本方針

地球温暖化が加速し、異常気象など深刻な問題が現実の事として起こり始め、環境保全対策に一刻の猶予も無い状況となっております。この環境破壊の原因の一つである運送に携わる企業として、変化することを恐れず、環境に配慮した業務に取り組み継続的改善をしていくことで、地域産業の一翼を担うべく皆様とともに歩んでいきたいと考えております。

## 行動指針

環境への負荷減少を目指し継続的改善を進めるため、環境目標及び環境活動計画等を定め活動致します。

1. 適用される環境関連法規等を遵守する事を誓約致します。
2. 二酸化炭素排出の削減に努めます。  
エコドライブの徹底、電気・ガス等の使用節約を行ないます。
3. 水の使用節約と有効活用を推進します。
4. リサイクル活動を推進し、事業所から排出される廃棄物を削減します。
5. グリーン購入等、環境に配慮した物品の購入を推進します。
6. エコドライブが安全意識向上と事故防止に繋がることを認識し、日々の業務に努めます。
7. この環境経営方針は全従業員に周知し活動を推進致します。

令和7年4月1日改定  
河津産業株式会社  
代表取締役 河津 直紀

(4)環境経営目標

目標	単位	区分	2024 年度 (R6.4~R7.3)	2025 年度 (R7.4~R8.3)	2026 年度 (R8.4~R9.3)
1 運搬車両の CO2 排出量削減  電力の CO2 排出量削減	kg-CO2	本社	6,000 (0.17%削減)	6,000 (0.17%削減)	6,000 (0.17%削減)
		北九州			
	kg-CO2	本社	333 (4.00%削減)	333 (4.00%削減)	333 (4.00%削減)
		北九州	407 (4.00%削減)	407 (4.00%削減)	407 (4.00%削減)
2 一般(事業系)廃 棄物排出量削減	t	本社	0.07 (10.00%削減)	0.07 (10.00%削減)	0.07 (10.00%削減)
		北九州	0.07 (10.00%削減)	0.07 (10.00%削減)	0.07 (10.00%削減)
3 運搬車両 一台当りの 水使用量削減	m <sup>3</sup> /台	本社	2.00 (5.80%削減)	2.00 (5.80%削減)	2.00 (5.80%削減)
		北九州	2.00 (5.80%削減)	2.00 (5.80%削減)	2.00 (5.80%削減)
4 環境に配慮した 機器等購入・入替	件/年	—	1.0	1.0	1.0
5 運搬車両の 燃費向上	km/ℓ	—	0.02 (0.65%向上)	0.02 (0.65%向上)	0.02 (0.65%向上)

運搬車両のCO2 排出量は軽油で目標値を算出(2012~2020 年度の平均)

電力の排出係数は 2022 年度九州電力CO2 調整後排出係数(0.462kg-CO2/kwh)を採用

運搬車両の燃費は 2020 年度を基準に設定

(5)環境経営計画及び

(6)環境経営計画に基づき実施した取組内容

取組目標		活動項目	責任者	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1	収集運搬車両のCO2排出量を 6,000kg-CO2(0.17%)削減	1 エコドライブを実施する	推進者													
		2 適正な車両整備を実施する	〃													
		3 排ガス規制、騒音規制適合車への代替を実施する	代表者													
	電力のCO2排出量を 本社275kg-CO2(4.00%)・ 北九州335kg-CO2(4.00%)削減	1 事務所内空調の適温化を徹底する	推進者													
2 事務所内空調の必要な区域を限定して利用する		〃														
2	一般(事業系)廃棄物の排出量を 本社0.07t(10.00%)・ 北九州0.07t(10.00%)削減	1 両面印刷、両面コピーを徹底する	推進者													
		2 使用済み用紙の裏紙を利用する	〃													
		3 個人ゴミ(飲料缶・弁当殻)を会社に持ち込まない	〃													
3	車両1台あたりの 水使用量を2.0m <sup>3</sup> (5.80%)削減	1 高圧洗浄機の使用制限を徹底する(車両洗車)	推進者													
		2 水道水の節水を徹底する	〃													
4	環境に配慮した機器等を 年度内に1件購入(入替)する	1 安全装置の購入を検討する	代表者													
		2 社用車入替時(ハイブリットカー)の購入を検討する	〃													
5	収集運搬車両の燃費を 3.02km/ℓ(-2%)へ	1 エコドライブを実施する	推進者													
		2 アイドリングストップを実施する	〃													
		3 適正な車両整備を実施する	〃													

※計画の実施は(2)-5 エコアクション21実施体制による

**(7)環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、  
並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画**

2024 年度 (R6. 4～R7. 3)		単位	区分	目標値	実績値	結果
1	収集運搬車両の CO2 排出量を 6,000kg-CO2 (0.17%) 削減	kg-CO2	本社	3,494,000	3,500,255	未達成 ▲6,255
			北九州			
	電力の CO2 排出量を 本社 275kg-CO2 (4.00%) 北九州 335kg-CO2 (4.00%) 削減	kg-CO2	本社	6,600	6,205	達成 △395
			北九州	8,070	9,121	未達成 ▲1,051
※ CO2 総排出量		kg-CO2		—	3,515,581	
2	一般(事業系)廃棄物排出量を 本社 0.07t (10.00%) 削減 北九州 0.07t (10.00%) 削減	t	本社	0.630	0.570	達成 △0.060
			北九州	0.630	0.447	達成 △0.182
	産業廃棄物再資源化率		%		100%	100%
3	運搬車両一台当りの 水使用量 2.00 m <sup>3</sup> (5.80%) 削減	m <sup>3</sup> /台	本社	34.0	23.6	達成 △10.39
			北九州	34.0	27.36	達成 △6.63
	※ 水総使用量		m <sup>3</sup>		—	1,664
4	環境に配慮した機器等を 年度内に 1 件購入・入替	件/年 度	—	1	1	達成
5	収集運搬車両の燃費を 3.02km/ℓ (2.00%) へ向上させる	km/ℓ	—	3.02	3.06	達成

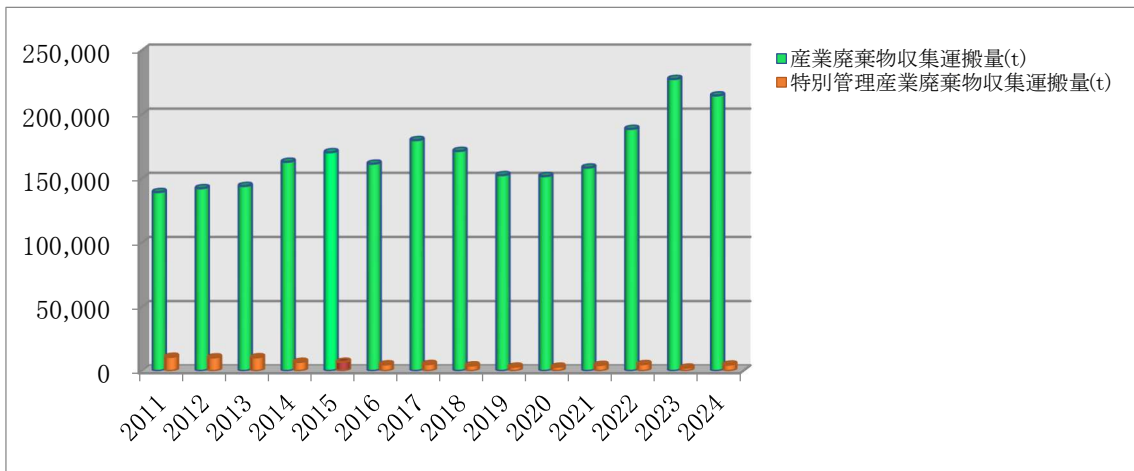
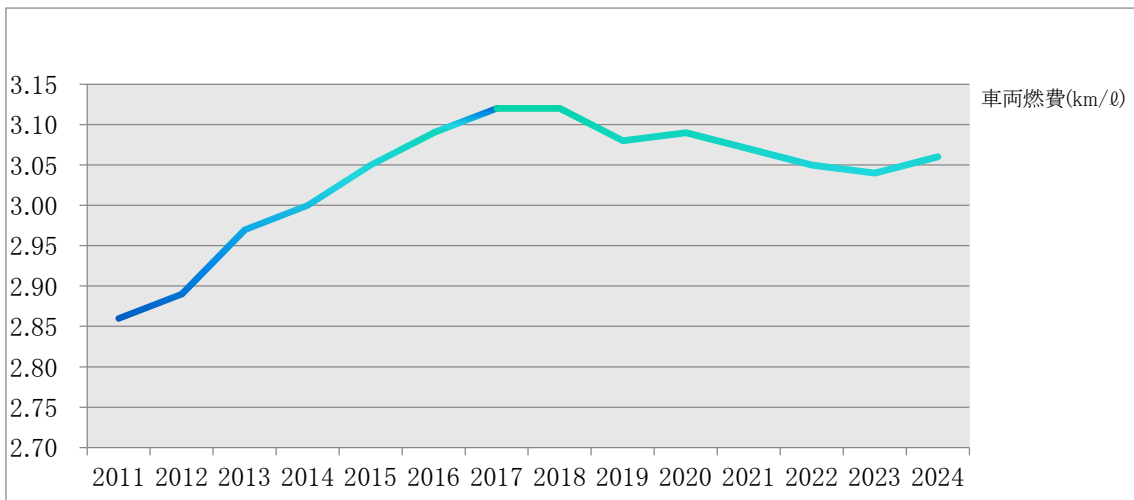
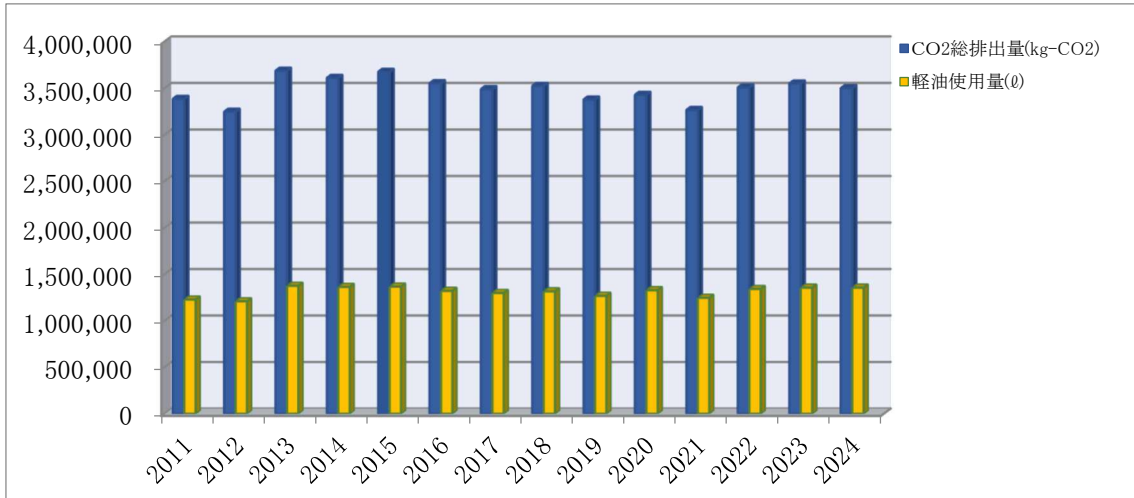
※産業廃棄物は発生量の目標管理が困難なので、再資源率で目標管理する。

2024 年度 (R6. 4. 1～R7. 3. 31)

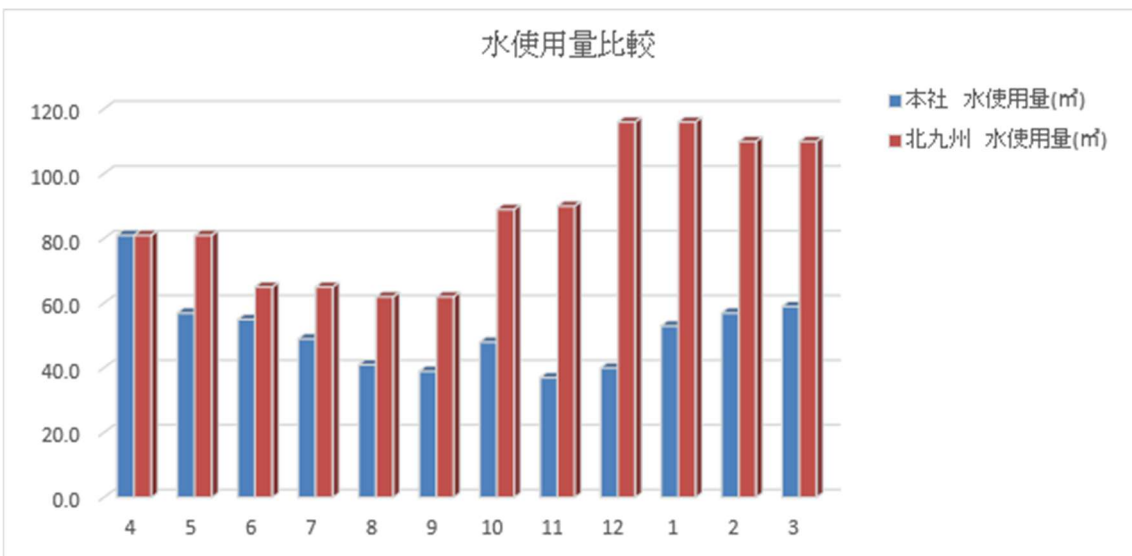
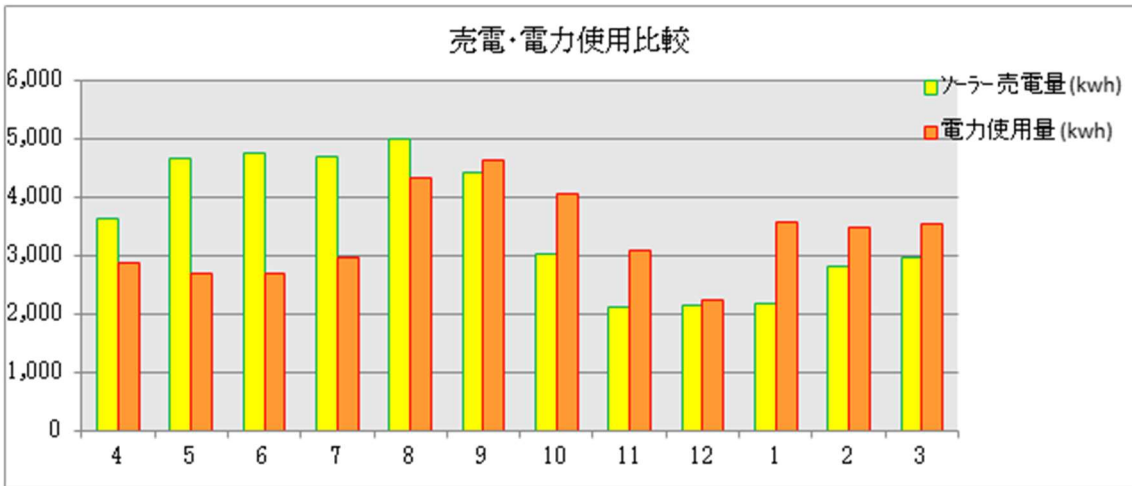
活動計画		取組結果の評価
1	収集運搬車両の CO2 排出量を 6,000kg-CO2 (0.17%) 削減	<b>✖未達成</b> <input type="checkbox"/> エコドライブを実施した。 <input type="checkbox"/> 社内基準によるオイル等交換・整備を継続実施した。
	電力の CO2 排出量を 本社 275kg-CO2 (4.00%) 削減 北九州 335kg-CO2 (4.00%) 削減	<b>本社</b> <input type="checkbox"/> 空調の温度設定を夏季 26～28℃、冬季 22～24℃とした。 <input type="checkbox"/> 電源の入切をこまめに行なった。 <b>北九州 ✖未達成</b> <input type="checkbox"/> 事務所内の空調は本社と同様の取組みを行なった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">※太陽光による発電は電力使用量を上回っている。</div>
2	一般(事業系)廃棄物 本社 0.07t (10.00%) 削減 北九州 0.07t (10.00%) 削減	<b>本社</b> <input type="checkbox"/> 両面印刷、両面コピーを徹底した。 <input type="checkbox"/> 使用済み用紙のストック場所を決め社内文書に利用。 <input type="checkbox"/> 個人ゴミ(飲料缶・弁当殻)の持ち込み禁止を徹底した。
		<b>北九州</b> <input type="checkbox"/> 本社と同様の取組みを行なった。 <input type="checkbox"/> 使用済み用紙のストック場所を決め社内文書に利用。 <input type="checkbox"/> 個人ゴミ(飲料缶・弁当殻)の持ち込み禁止を徹底した。
3	運搬車両一台当りの 水の使用量 2.00 m <sup>3</sup> (5.80%) 削減	<b>本社</b> <input type="checkbox"/> 洗車時の高圧洗浄機の使用制限の徹底が不足している。 <input type="checkbox"/> 蛇口のこまめな開閉を徹底した。
		<b>北九州</b> <input type="checkbox"/> 洗車時の高圧洗浄機の使用制限を徹底した。 <input type="checkbox"/> 蛇口のこまめな開閉を徹底した。
4	環境に配慮した機器等を 年度内に 1 件購入・入替	<input type="checkbox"/> 三原営業所の事務所を新設。
5	収集運搬車両の燃費を 3.02km/ℓ (2.00%) へ向上させる	<input type="checkbox"/> エコドライブ・アイドリングストップを実施した。 <input type="checkbox"/> 日常点検・法定点検の実施、社内基準による整備実施。

※次年度の環境経営目標は(4)のとおり

2011～2024 年度の実績グラフ (4.1～3.31)



2024 年度の実績グラフ (4.1~3.31)



※次年度の環境活動計画

	活動内容	取組内容
1	<b>収集運搬車両の CO2 排出量削減</b>	①エコドライブを実施する ②適正な車両整備を実施する ③排ガス規制、騒音規制適合車への入替を実施する ④社員に徹底したアイドリングの周知
	<b>電力の CO2 排出量削減</b>	①事務所内空調の適温化を徹底する ②事務所内空調の必要な区域を限定して利用する
2	<b>一般(事業系)廃棄物削減</b>	①両面印刷、両面コピーを徹底する ②使用済み用紙の裏紙を使用する ③個人ゴミ(飲料缶・弁当殻)を会社に持ち込まない
3	<b>運搬車両一台当りの 水の使用量削減</b>	①高压洗浄機の使用制限を徹底する(車両洗車) ②水周りの節水を徹底する ③洗車のマニュアルを周知する
4	<b>環境に配慮した機器等を 年度内に 1 件購入(入替)する</b>	①営業車の入替(ハイブリット)を検討する ②環境に配慮した機器の購入を優先する
5	<b>収集運搬車両の 燃費を向上させる</b>	①エコドライブを実施する ②アイドリングストップを実施する ③適正な車両整備を実施する

**(8)環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟などの有無**

過去3年間環境関連法規に関して、

- 道路運送車両法
- 廃棄物処理法
- 消防法
- 浄化槽法
- 水質汚濁法
- フロン排出抑制法

を調査した結果、違反はありませんでした。

また、関係当局からの違反の指摘・訴訟の事実もありません。

**(9)代表者による全体の評価と見直し・指示**

現在、燃料価格の高騰や労働力不足といった深刻な課題により、物流業界全体が厳しい状況に置かれております。こうした逆風の中にあっても、弊社はこの状況を変革の好機と捉え、DX(デジタルトランスフォーメーション)やITの積極的な活用を通じて業務革新を推進してまいります。

その一環として、社員一人ひとりが業務の見直しと改善に主体的に取り組むとともに、新たな営業所の開設による体制の強化も進めております。

また、異常気象や地球環境の変化が顕著な昨今、環境目標の達成が一層困難になる中、私たちはその現実を真摯に受け止め、環境負荷の低減に少しでも寄与できるよう、地道な努力を重ねてまいります。

今後とも、現状に甘んじることなく、持続可能な成長と社会的責任の両立を目指し、着実に歩みを進めていく所存です。